	学籍番号	氏名
対象学生	1633033	松本真弥

論文題名	レッジョ・エミリアの教育における『REMIDA』について—役割と日本における可能性—

要約

本論文の目的は、世界中が注目する「レッジョ・エミリア」の教育を理解したうえで、「REMIDA」の魅力を探り、日本でのREMIDA普及活動に活かすことである。

そこで、まずレッジョ・エミリア市と教育の歴史を調べ、この教育に貢献したローリス・マラグッチと影響を与えたジャンニ・ロダーリらとの関係についてまとめた。

マラグッチの有名な「１００の言葉」は、子どもたちが持っている豊かな想像力や創造性をつぶしてしまう大人たちに対する痛烈な批判であり、教育の方向性を示している。「レッジョ・エミリア」の教育の特徴は、大人が知識や技術を教え込むのではなく、大人と子どもは対等で、創造性を発揮し、美的で探求的な活動を通して「ともに」学び、関わりあって市民を育てることである。そのために必要な保育環境・スタッフ養成・育児支援を行なっていることもわかった。

この論文では、特にその中で大きな役割を果たす「REMIDA」に注目した。廃材を使って「自分を表現する」場であるREMIDAは世界13か所に広がり、「それを活用し地域によって育てられた人材が次世代を育てる」という持続可能な社会の循環を生み出す文化を発信している。現在日本でもREMIDA設立の動きがある。

そこで、９月に日本で行なわれた「REMIDA」プロジェクトにボランティアとして参加した。実際に廃材を活用し、子どもたちはモノを通して協同したり、個性豊かな表現活動を展開したりしていた。スタッフや子どもの姿を見て、REMIDAによって創造力と表現力、他者とのコミュニケーション能力を高めることができることを実感した。そして、そのためには環境設定の工夫が欠かせないことも学んだ。

また、園長やアート関係者など、REMIDA設立を応援している方々３５名にアンケート調査を行った。その結果、「協働的な学びや素材を通して常に生まれる構築・再構築のプロセスを捉える視点を伝えていけたらいい」「じわじわと地域の中で活動し、ゆくゆくは公教育にまで広がるのが理想的。」「廃材を使った乳幼児の表現型、REMIDAでのワークショップで交流、子育て支援。」など、地域連携を重視した、幅広い層を対象にした活動を期待していることがわかった。

実際、来年度から岡山市では具体的な活動が始めるという。もっと多くの人が「レッジョ・エミリア」の教育を知り、「REMIDA」を設置できる場と素材を提供してくれる企業が増えていけば、いずれ日本にも広がるだろう。

しかし「レッジョ・エミリア教育」を唱え、ライトテーブルなど大事な道具があっても、宝の持ち腐れになっている園もみたことがある。多くの保育士が学び続けることのできる環境の整備も望まれる。私自身も保育士として、今後学び続け、REMIDAを活用していきたい。